琉球病院 Monthly

独立行政法人
国立病院機構　琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.60
2017. December

発行者　琉球病院事務部長
有岡　雅之

基本理念　この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

「虐待防止研修会」を開催して

療育指導室長　金城　安樹

11月22日(水)17:30～18:30、当院あしびな～棟(体育館)にて院内職員を対象に障害者虐待防止研修を開催しました。沖縄県障害者等相談支援体制整備事業、中部圏域アドバイザーの津波古悟氏から「強度行動障害と虐待」をテーマにご講演を頂きました。院内職員は院長先生をはじめ 147 名が参加し会場は満席となりました。津波古氏からは人権侵害や身体的虐待は、支援のマンネリ化とその環境によって繰り返される。第３者が見聞きした際に、どうなのかという事を問われておられました。職員の意識開拓、支援スキルの習得（障害特性を理解した対応）が求められると共に組織的、具体的な虐待防止の取り組みが不可欠であると話されていました。

当院では、配慮不足による事故や原因不明の打撲等が続き、院内の虐待防止委員会において検証を行っています。また、第三者委員や親の会の代表の方から意見を頂く機会をつくりました。全職員を対象とした職員セルフチェックリストの実施を行いましたが、今後は分析し課題を確認する事が必要となります。また、行政や院内における研修を企画しました。職員自ら行動を顧み、常に研鑽し続ける事が重要と考えます。

しかし、虐待防止体制が整備されていても、重要なことは職員が利用者一人ひとりを大切に思い、訴えられない思いに敏感に対応し、支援するその行動である。全職員が意識を高め取り組み、利用者サービスの向上に努められるよう、今後も取り組んでいきたいと思います。

院　長

福治康秀(ふくじ　やすひで)
1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。
1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。
95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。
日本病院・地域精神医学会理事。

診療科

- 一般精神科
- こども心療科
- 物忘れ外来
- アルコール依存症等外来

病床数 406床

精神科病棟	181床
認知症	50床
アルコール	54床
児童思春期ユニット	4床
重症心身障がい	80床
医療観察法	37床

那覇市からのアクセス

●アクセス
路線バス／那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス「77番名護東線」浜田バス停下車徒歩3分
自 動 車／那覇市から40分
沖縄自動車道道金武インターから名護向け5分

トピックス

行事・出来ごと

- 病棟等建替　進捗状況　本体工事：新病棟（第１期工事）完成 ・・・・・・・・ 平成27年7月
- 整備の動き　雨水配水管盛替工事　完成 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 平成29年2月
  新病棟（第２期工事）　完成予定 ・・・・・・・・・・・・・・・ 平成30年10月

教育・研修

- むちぐすい　まーさむんフェア　日時：平成29年12月3日(日) 9:30 ～ 15:00
  (金武町産業祭り他)参加　場所：町立体育館
  血圧測定、アルコールチェック、認知症チェック、骨密度測定、健康相談
- 琉球病院ダンスパーティー　日時：平成29年12月7日(木) 13:30 ～ 15:00
  場所：あしびなあ体育館

NHO PRESS～国立病院機構通信～について

琉球病院は、国立病院機構(NHO: National Hospital Organization)という143の病院からなる国内最大級の病院ネットワークの病院です。

国立病院機構(NHO)という病院ネットワークが、どのようなグループでどのような活動をしているのかを紹介する「NHO PRESS～国立病院機構通信～」を発行しています。 外来ロビーに設置していますので、ぜひご覧になってください。

なお、ホームページに最新号と過去のものを掲載していますので、そちらもぜひご覧になってください。「NHO PRESS」で検索してください。

NHO PRESS　検索　QRコード

地域医療連携室だより

当院は、アルコール専門病棟があり毎日、本人、ご家族、関係機関などから相談があります。まずは事前相談(聞き取り)を行い受診に繋いで行きます。事前相談をすることで受診前に問題があれば問題解決に繋がることもあり受診時にはスムーズに診察することができます。当院は家族教室を第２、第４金曜日の１３時３０分～１５時３０分まで行っています。当院に通院していないご家族でも参加可能です。ご不明な点があれば地域医療連携室にご連絡下さい。

空床状況

精神科病棟	認知症	アルコール	児童思春期ユニット
0床	3床	12床	1床

11月30日現在

※ 入院予約に関するお問い合せは地域医療連携室へご相談下さい。

お問い合わせ時間
8:30～17:15（土・日・祝日以外）
TEL：098－968－2133（代）
内線：231・234
地域医療連携室(直通)
TEL：098－968－3550
FAX：098－968－7370

治療抵抗性精神疾患への医療

クロザピンの治療状況

平成22年から治療抵抗性統合失調症の患者様に対してクロザピン(CLZ)治療を開始し、全症例は217例になりました。平成29年10月のCLZ導入は2例で、2例とも他の病院からご紹介の患者様でした。CLZ治療前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために隔離が必要な患者様も多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動も少なくなり、隔離は解除できています。週に3回の専門外来も行っていますので、患者様のご紹介をお願いいたします。

m-ECT（修正型電気けいれん療法）の治療状況

当院では、m-ECT(修正型電気けいれん療法)による治療を行っております。平成29年10月の治療実績はありませんでした。

こども心療科

「すぐキレる」「カッとなったら止められない」等、感情コントロールの難しい子どもへの対応に苦慮し、来院される患者様が多く見受けられます。また、日ごろ子どもたちと関わっている支援者からも、そのような行動を見せる子どもに対して「どう接したらよいかわからない」という声をよく聞きます。

そこで当院では、「沖縄県子どもの心の診療ネットワーク事業」の一環で、2月12日(月・祝)に東京学芸大学教授の大河原美以先生をお招きし、「感情コントロールできない子への理解と援助」というテーマで、講演会を開催します。

時間や会場等、詳細な内容については次回のマンスリーにてご案内いたします。

認知症医療

11月3.4日の両日、長野県松本市において【第60回　日本病院・地域精神医学会総会】が開催されました。当病棟からは看護師の石川修より「認知症予防プログラムの取り組み～病院臨床の中で行う予防教室の実践とその意義について～」と題し、H28年4月から開始した「もの忘れ予防教室」のプログラム紹介と活動の様子、認知検査・高齢者用うつ尺度のプレポストの結果、考察では、病院でもの忘れ予防教室を取り組む意義について、そして今後の課題として週1回での実施では効果の維持・向上が難しく週3回、必要であること、それに伴ってホームワークを行うこと、地域での予防サークル立ち上げを支援していくことの必要性を発表しました。発表後には、「予防教室を立ち上げ時の地域へのアプローチはどうやったのか」、「プログラムでのグループ分けや予防教室参加者のモチベーションの維持をどうやっていたのか」などの質問や、具体的なプログラムの内容を教えて欲しいと興味をもたれる方々もいました。

再来年の学会が沖縄に決定したこともあり、今後も多くの職員が参加し、知識や倫理観を切磋琢磨し琉球病院の看護の質向上に期待します。

重症心身障がい医療

平成29年11月10日(金)、香川県社会福祉総合センターにおいて、第7回専門医療を要する重度知的障害者の障害者総合支援法における療養介護対象者としての法整備に向けた勉強会へ参加しました。全国の国立病院機構精神科の9施設から院長先生をはじめ、担当者が参加しました。今後、研究をとおして国立病院機構が医療機関かつ障害福祉サービス事業所としての役割を果たしていくため、専門的な治療施設の需要と治療方法等について検討をすすめていく事となります。今後、更に重症心身障害医療・福祉が充実していく為にも関係者一丸となって取り組んでまいります。

アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い『飲酒欲求』を直接和らげてくれる作用があります。当院では10月末現在、外来通院の患者様71名、入院中の患者様31名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。また、当院の外来での調査では、レグテクト内服を継続している患者様の方が、治療継続率が高いという結果も出ております。患者様へは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

包括的地域精神医療

平成29年10月の訪問看護利用は、747件ありました。新規・再開の6名の申し込みがありました。訪問看護では、退院後や通院を継続しながら地域での生活がスムーズに送れるよう病状が安定し、地域や施設等で自立した日常生活が送れるように支援を行います。訪問看護の導入では、入院中や通院時からケースカンファレンスへ参加し、利用者様の再発兆候や社会的サポート状況を把握できるように努めています。訪問看護利用中も、地域のケア会議へ積極的に参加し、多職種で情報を共有し、各個人の生活スタイルに合わせた支援体制を行っております。

臨床研究部活動状況

『熊本地震DPAT隊員へのアンケート分析』②　副院長　大鶴卓

熊本地震で活動した全国のDPAT隊員(42自治体1018名)を対象とし、①基本属性、②災害関連の経験、③熊本地震への派遣について、④DPATや災害医療に関する認識についての確認などの項目で構成された調査票を用いてアンケート調査を行いました。今回は前回のマンスリーに引き続き③④の結果をご報告いたします。

過去の災害支援経験は、ある41%、ない58%でした。DPAT関連の研修受講の有無は、ある35%、ない64%であり、研修受講がある者のDPAT関連研修の形態は、都道府県DPAT研修のみが51%を占めていました。DPATや災害医療の認識・知識は、1.DPAT概要、2.指示命令系統、3.連携、4.CSCA、5.情報関連システムの5項目について質問紙、項目1～3は最高3点、項目4、5は最高4点であり、1～5の正答の合計点の平均は12.7点でした。

DAPT関連の研修参加の有無による合計点の平均は、研修受講ありは13.5点と平均点を上回っていましたが、受講歴なしは12.2点と平均点を下回っていました。

研修形態と平均点との関連は、先遣隊研修+都道府県研修が14.8点、DPAT研修+都道府県研修が14.5点、3研修すべて受講が14.3点であり、先遣隊研修と都道府県研修の両方とも受講している群が最も平均点が高い結果でした。

厚生労働科学研究費　「災害派精神医療チーム(DPAT)の機能強化に関する研究」分担研究報告書より一部抜粋